

大正の洋館 マンションの入り口に



阪神大震災で被災した神戸市長田区の大正時代の洋館「槌橋家住宅」を隣接地に建設中のマンションの入り口として活用し、その分譲利益で補修・保存する試みが始

国の有形文化財

神戸・槌橋家住宅

まった。

洋館は国の有形文化財に登録されており、マンションの一部として再生されるのはまだだ。

槌橋家住宅は23年（大正12年）に建てられた木造2階建て。大

古い洋館（左側）を生かしたマンションの完成予想図

分譲利益で被災部分補修へ

きな窓や明るい壁の色が特徴のスペイン風建築だ。95年の阪神大震災で煙突が倒壊したり、壁の一部が崩れるなどしたため、補修してきた。しかし、保存するには大規模な補修が必要だった。

所有者の槌橋雅博さんは洋館を保存するため、マンション建設と組み合わせることにし、マンション事業の日本エスコンに洋館と周辺の土地を売却。同社は洋館を隣に建てる6階建て39戸のマンション（総事業費約11億円）の入り口・集会室として活用することにした。

分譲利益のうち数千万円かけ、洋館を補修する。マンションの分譲価格は2400万～3600万円、近く販売を始める。